



## 東京バッハ合唱団主催

# 「創立57周年記念講演会」と「バザー」と「懇親会」

### ＜バザー開催のお知らせ と 出品のお願い＞

記念講演会と併行して、合唱団活動支援のバザーが開催されます。

団員や後援会員、サポーターなどの方々から提供されたアイデアや気持ちの籠った品々が出そろうことと思います。ご支援を頂きながら、バッハの時代のバザールに思いを馳せつつ、買い物を楽しんで頂きたいと存じます。

出品の品々は、当日会場に直接ご持参ください。食料品、アクセサリー、置物、日用品他、種類を問いません。（事前に、事務局までお送りいただくことも、大歓迎です）

【日時】2019年7月6日（土）

開場（午後2時30分）～ 講演会開始（3時30分）まで

講演会終了（5時30分）後 ～ 6時頃まで

【会場】日本キリスト教団・荻窪教会エントランス

（表面の地図をご参照ください）

---

### ＜創立57周年記念講演会 企画の趣旨＞

1962年創立の東京バッハ合唱団は、毎年7月の創立の時期に、記念の催しを企画してまいりました。今年57周年を迎えますが、レクチャーをとおして、バッハ音楽とその背景にある西洋の芸術文化について、地域の皆さんと共に、専門家のお話しを伺うことにしました（講演のご案内は表面をご覧ください）。

バッハ音楽は、2000年の西洋文明の積み重なりのなかに、一つの芸術的頂点として燦然と輝いています。《ブランデンブルク協奏曲》、《フーガの技法》のような器楽曲やオルガン曲、《マタイ受難曲》などの大規模なオラトリオ作品、それぞれのファンの方々も大勢いらっしゃると思います。そんななかで、プロテスタントの作曲家であるバッハに、聖母マリアを主題とした充実した声楽曲が多数残されていることは、あまり知られていないのではないのでしょうか。

いっぽう、中世、ルネサンスからバロックにかけての画家たちが、腕を競った宗教絵画の数々。そのなかでも『受胎告知』など、聖母マリアを主題とした傑作はわが国でも人気ですが、その表現の何がわたしたちを魅了するのか。

東京バッハ合唱団のお二人の団友によって、二つの異なる方面から、聖母マリアの音楽と美術に光を当てていただきます。バッハ音楽への理解がより深められることをねがっています。

---

### ＜懇親会＞

—— 後援会員・団友・サポーター、地域のみなさんとともに ——

講演会後18:00頃より、別会場にて懇親会（有料・要予約）を行います。楽しく歓談しましょう。

【会場】中国料理「香酒縁」（荻窪駅南口、仲通商店街）。会場へは当日ご案内致します。

【参加】ご希望の方は、事前にお申し込みください。当日の参加も可能です。

---

主催＝東京バッハ合唱団（〒156-0055 世田谷区船橋5-17-21-101）

Tel : 03-3290-5731 Fax : 03-3290-5732（専用） mail: office@bachchor-tokyo.jp